

まちづくり推進委員会第28回“地域支え合い分科会”議事録

○日 時 2021年10月27日(水) 午前9時～10時40分

○開催方法 ZOOM

○参加:13名

☞東京大学高齢社会総合研究機構(IOG):3名

高瀬特任研究員

東海大学工学部建築学科 後藤准教授

佐賀大学大学院学校教育学研究科 荻野准教授

☞地域支え合い分科会:10名

1 前回第27回(9/30)に決めたこと

(1) 地域支え合いの取り組みを具体化するためには、町内会役員の理解が前提となる。

東大 IOG のご支援をいただいて4月に ZOOM 方式で行ったが、“コロナ禍”でのこれまでの分科会の取り組みも含め、現役員(11月?)と次期役員(年明け?)に対して、それぞれ、再度、東大 IOG のご支援をいただき、説明・懇談の場を設ける方向で、高瀬先生に調整をお願いすることとした。

(なお、“宣言”解除後の会館利用は、当面、①15名以内 ②1時間以内)

(2) 各分科会委員において、地域支え合いトライアルのサポート希望者をピックアップし、継続してトライアルを行う。“庭の手入れ”だけではなく、可能であれば、電球の交換、買い物のお手伝いなども行ってみる。

2 本日の協議内容

(1) これからの取り組みについて

【後藤先生】

- ・ 今日で分科会も28回目を迎え、“コロナ禍”の中で丸3年の取り組みとなったことは、凄いことだと思う。なかなか、当町内のようなケースはない。
これは一つのカルチャーだと思った。
- ・ 高齢化する郊外住宅地で、住み続け生き続ける”価値”について、改めて町内で共有する時期を迎えたと考えているので、率直な意見の交換をしたい。

【A 委員】

- ・ 今年4月に町内会新役員への説明会を ZOOM も使いながら行ったところだが、対面でないこともあり、必ずしも十分な理解を得られたとは言えない。
- ・ “まちづくり”は、一部の有志で取り組むのではなく、あくまで町内会としての取り組みの中で位置付けられる必要がある。その意味でも、来年度の役員が決まりつつある年内に、“地域支え合い”、“移動支援”、“子育て支援”の全体像について、新旧役員と共有する機会を持つべく、東大 IOG のご協力をいただき、“まちづくり懇談会”を開ければと考えている。

【B 委員】

- ・ 町内会役員との関係では、町内会防災部も”まちづくり推進委員会”と同じような状況にあり、11月下旬に、とりあえず現役員に町内防災の意義について説明をすることとしている。
- ・ 後藤先生のカルチャーに関連して、私が約 20 年弱この町に住んで気付いたことは
① 可能な限りこの町に住みたいという高齢者がかなりの数に上ること。② やむなく施設に入った一人暮らしの方の中に、引き続き町内会費を支払ってくれる人、あるいは、町内会の行事に参加したいという人もいること。③ 他方、一人暮らしで何もできないからという理由で町内会を退会した人もいること。

いずれにしても、かなり多様性がある人たちが住んでいる。私はその中で、上記①②に近い人たちを支え合う組織を作りたい。ただ、今まで全く町内会活動に無関心だった、50 代 60 代の方々、仕事をしている方々で、身近に高齢者がいない方はなかなか理解してくれないようだ。

【C 委員】

- ・ ”コロナ禍”が始まって1年9カ月、その中でも、”世話役活動”、”防災”、”防犯パトロール”、”生徒登校時の交通安全活動”などのベーシックな活動は続けられており、また、今月からは”町内清掃”も再開された。この機を逃さず、東大 IOG のご協力をいただき”まちづくり懇談会”を開き、問題意識を共有しアクションに結びつける意義は大きいと思う。

【後藤先生】

- ・ 今日の”まちづくり”は、都市計画分野だけではなく、福祉、教育の分野ともコラボしながら実践していく時代であり、東大 IOG として、鎌倉市にも働きかけながら、町内会と共催する形で開催できればと思う。

【C 委員】

- ・ 郊外型住宅地は、首都圏、近畿圏など、ここ半世紀の間に新しく形作られた“地域社会”であり、それまでの生業、地縁、血縁からなる“伝統的な地域”とは大きく異なっている。その意味からも、ある種、実験的な取り組みではないか。

【A 委員】

- ・ 町内では、今から28年前に”助け合いの会(現在、“ひまわりの会”)”が先駆的な取り組みをスタートさせ、現在までの経験の蓄積があることが大きい。町内で、この”文化資産”をいかに引き継ぎ、展開していくのか、闊達な意見交換ができればと思っている。

【D 委員】

- ・ 町内会役員の福祉担当の方から“ひまわりの会”への参加お手伝いについて問われ、これまで“ひまわりの会”と関わってきたことについてお伝えした。なお、“ひまわりの会”には 10 月に入って 2 件のお手伝い依頼があり(その内 1 件は地域包括センターからの紹介)、それぞれ対応を開始させている。

【E 委員】

- ・ 昨年7月に深沢地区の町内会長、社協、地域包括、民生委員などをメンバーとする

”深沢会議”が発足したとのことだが、この仕組みと、当町内会の”地域支え合い”の取り組みと関係はどうなっているのか？

【大郷委員(地域包括)】

- ・ 深沢会議は鎌倉市社会福祉協議会・生活支援コーディネーターが事務局となり、昨年7月に発足し、深沢地区社会福祉協議会、深沢地区連合町内会、第5・6地区民生委員児童委員協議会、のそれぞれの代表者、深沢支所長・副支所長、教養センター所長、包括みどりの園鎌倉・湘南鎌倉職員等が集まり、深沢地域全体の高齢者福祉について話し合っている。
- ・ 課題を出し合い、地域全体として優先度の高かった、ゆるやかな見守り活動から取り組むことになり、10月から準備が整った町内会から順次活動を開始されている。当町内会長に、7月末に高橋生活支援コーディネーターと深沢会議の仕組みについて説明を行った。町内会ごとに状況は様々なので、弾力的な形で進められる予定。
- ・ 当分科会で話し合っているような支え合い活動についても、今後、深沢会議で取り上げられる可能性はあるが、現状では各町内会や地域住民がそれぞれ活動されている。大平山丸山町内会のように、町内会で支え合い活動をされている町内会は限られている。

【F 委員】

- ・ 町内会の活動は、町内会員の会費で賄われているのだから、町内会役員は、それが会員への福利(”防犯”、”防災”、”まちづくり”、”美化”、”親睦”など)に役立っているか、きちんとチェックするという役割が課されている。

【後藤先生】

- ・ 自治体のコミュニティ政策と、地域のコミュニティづくりの実践との異同を、いつも頭に置くよう市には助言をしているところだが、この間を繋ぐのが研究者だと考えている。

(2) まとめ

【高瀬先生】

東大 IOG で、“町内会まちづくり説明会”について検討するので、各委員のご意見をいただきながら、次回までに具体案を提案したい。

なお、11月中に分科会開催することで日程調整をお願いしたい。

☞分科会出席委員、了承。